

コア・クラスター/ジェンダー系

コア・クラスター制度「企業・起業論」終わる

文教育学部教授・学長補佐 篠塚英子

本号創刊号に市古夏生副学長による「新しい教養教育の夜明け」コア・クラスター制度始まる」というお知らせがあったのを記憶ですか？今年「ジェンダー・コース」と「総合環境学コース」の二本が走っています。ひとつの学問をコア(核)にして、異なる専門領域から関連する授業科目を選択していくものです。

今回はジェンダーをコアにしたコースから、私が担当した「企業・起業論」のケースをご報告します。まず「企業・起業論」というと、皆さんはどんな学部をイメージしますか？きつと経済学部や経営学部が最初に浮かぶはずですが、でも本学は二つとも持っていません。しかしジェンダーをコアにすることで視点を少しずらした「企業・企業論」を作ってみました。

この授業の狙いは三つです。第一は女性が経済的に自立する手段について考えるきっかけにする。第二に、雇われて働く場合と、業を起こす場合の働き方の違いを知り、第三にこうした観察の結果、獲得した知識によって現行制度の不備などを発見し、新たな制度構築の提言をするといった訓練に役立つこと、などです。

まず一クラス四五人の受講生を一五〇人のなかから選抜。導入部分は篠塚が現在の経済状況、労働市場、企業経営など概論を講義しその後、私のネットワークを使って起

業家六人を含む計一〇人の男女ゲスト・スピーカーによる連続講演会を実施しました。講師のうち三人は本学卒業生で民間企業管理職者と大学講師です。

学生は四〜五人づつ一〇班のグループにわけ、毎回のゲストスピーカーへの事前連絡、当日の講義準備、司会、討論、そして講義のテークアップ、その講義録の冊子作成、という授業のすべてを担当しました。学生と篠塚との連絡はもっぱら携帯電話のメールが活用されました。OL時代にセクハラ被害をうけたのを契機に独力で起業家になった女性、六回もの転職を経て、外資系人事部長になった女性、まだ許可のなかった保育分野に人材派遣業を起し、常にフロンティアを歩き続けてきた女性起業家、OLの経験を活かして独自の市場調査会社を作った女性。どの話も毎回、学生にとって初めて聞くまったく未知の世界です。授業後は毎回気が高ぶって帰宅したという学生の声は誇張ではなさそうです。



左: コア・クラスター「企業・起業論」の授業を創る
右: 『企業・起業論』の授業記録

講義のあとには担当班が責任をもって出席

毎回くりかえしました。

最後の授業は学生独自の企画による授業全体の反省と討論会の実施がハイライトで

す。一年生から四年生が一緒になって見事なハーモニを奏で、感動的な時間延長の最終回でした。夏休みには学生の手にによる「企業・起業論の授業を創る」の記録ができました。参加した学生たちのここでえたネットワークによって、新たな力が結実する日がいつかくると期待しています。

平成十四年度学年歴

- 四月九日 入学式
- 四月十五日 前学期授業開始
- 七月二〇日 大学見学会(オーブンキャンパス)
- 八月一日〜九月十六日 夏期休業
- 八月二十九日〜三〇日 大学院前期課程入学試験一次
- 九月十二日〜十三日 大学院後期課程入学試験一次
- 一〇月一日 後学期授業開始
- 十一月九日〜十一月一〇日 微音祭(学園祭)
- 十一月二十九日 創立記念日
- 十二月二日〜四日 冬期休業
- 二月六日〜八日 大学院前期課程入学試験二次
- 二月二十五日〜二十六日 学部入学試験二次試験前期日程
- 三月四日〜六日 大学院後期課程入学試験
- 三月二十四日 卒業式、修了式

編集後記

学外向け広報誌の第三号をお届けします。これまで国立大学は、学内の教育・研究にのみ、とかく専念しがちでした。

広報誌に関しても、本学では以前、主に学内の読者を想定した広報誌だけでした。しかし、独立法人化を控え、これまで以上に研究と教育に力を入れると同時に、それらの成果を、いかに社会に発信し、還元できるかが問われます。

本誌は、そのささやかな環です。本号の編集段階でお茶大がCOE(いわゆるトップ30)入りしたニュースが飛び込みました。ますます、本学の成果や魅力を心してアピールしたいと考えます。本誌は、試行錯誤しながら制作しています。ご意見やご感想を、ぜひお聞かせ下さい。(内田)